

衆議院農林水産委員会ニュース

【第 219 回国会】令和 7 年 11 月 25 日（火）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件

- ・鈴木農林水産大臣、根本農林水産副大臣、福山法務大臣政務官、三反園財務大臣政務官、広瀬農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者）山本大地君（自民）、神谷裕君（立憲）、小山展弘君（立憲）、岡田華子君（立憲）、近藤和也君（立憲）、平岡秀夫君（立憲）、池畑浩太郎君（維新）、空本誠喜君（維新）、許斐亮太郎君（国民）、臼木秀剛君（国民）、角田秀穂君（公明）、八幡愛君（れ新）、北神圭朗君（有志）

（質疑者及び主な質疑事項）

山本大地君（自民）

- （1） 広島県における養殖カキへい死の状況を視察した農林水産大臣の感想及び事業継続が困難な事業者への支援策
- （2） 所信的発言で「理想的な政策も現場の皆様の心が動かずには効果を発揮できない」等と述べた農林水産大臣の意図
- （3） 米の安定供給に向けた政府の短期的・中長期的それぞれの対応策の進め方
- （4） 果樹の生産拡大に向けた今後の取組
- （5） 農業構造転換集中対策関係
 - ア 別枠予算を確保して農業の構造転換を推進することに対する農林水産省の決意
 - イ 新基本計画実装・農業構造転換支援事業の補助率引き上げ等の詳細
- （6） 農林水産物・食品の輸出額を 2030 年に 5 兆円に拡大する目標達成に向けた支援強化の必要性

神谷裕君（立憲）

- （1） 前政権と現政権の農業政策の比較関係
 - ア 本年 11 月 19 日付け朝日新聞における石破前内閣総理大臣の米の増産や価格に関するコメントについての農林水産大臣の受止め
 - イ 石破前内閣総理大臣の述べていた農業者の所得確保策についての農林水産大臣の見解
 - ウ 農業者の所得確保策が現行の収入保険と経営所得安定対策等のみで十分であるのかについての農林水産大臣の認識
 - エ 生産者の将来にわたる所得確保のために直接支払や直接所得補償を検討する必要性
 - オ 猫の目農政との批判に対する農林水産大臣の見解
- （2） 米・水田政策関係
 - ア 需要に応じた生産に向けた農林水産大臣の取組方針
 - イ 今後も生産量の目安が地域ごとに提示されることの確認
- （3） 農林水産省の定員等関係
 - ア 現場で業務に当たる統計職員の減少により作況指数等の精度が下がったとの意見を踏まえて定員合理化を見直す必要性
 - イ 人員を減らしすぎたために農林水産省が本来やるべき必要な業務も削られているのではないかとの懸念に対する農林水産大臣の見解
- （4） 令和 9 年度以降の水田政策の見直し関係
 - ア 水田活用の直接支払交付金の重要性を踏まえて検討する必要性
 - イ 令和 9 年度以降の水田政策においても、非主食用米の支援単価を主食用米並みの所得確保を念頭に設定する必要性

- ウ 農林水産大臣が来年6月に示すと述べた具体策を農業者の営農活動に合わせて少しずつでも早めに示す必要性
- エ 令和9年度以降の水田政策においても十分な予算を確保する必要性
- (5) 江藤元農林水産大臣と小泉前農林水産大臣がそれぞれ行った備蓄米の放出に対する農林水産大臣の評価

小山展弘君（立憲）

- (1) 「文化を食する」「多くの感謝の意を込める」という観点から国会審議において米を「お米」と呼ぶことに対する農林水産大臣の感想
- (2) 中国による日本産水産物の輸入停止に関し、理由についての認識、今後の中国向け輸出の見込み及び輸出協議の現状
- (3) 小泉前農林水産大臣によるJAグループに受託販売から買取り販売への転換を促すような発言に対する農林水産大臣の見解及びそれぞれの販売形態についての認識
- (4) 生産コスト増加にも対応できる所得補償制度を新設する必要性
- (5) 悪臭を発生させるおそれのある有機肥料製造施設を建設しようとする業者が地元自治体・住民の合意を得ずに国内肥料資源用拡大対策事業の利用申請を出した場合の農林水産省の対応方針
- (6) 農林水産関係予算について少なくとも物価上昇率と同じ分は増額させることに向けた農林水産大臣の意気込み

岡田華子君（立憲）

- (1) 米の生産量に係る政府の方針について小泉前農林水産大臣との相違点
- (2) 米の需要増が実現する前に米の増産を促すという手法に対する農林水産大臣の見解
- (3) 今年の米市場の動きに対する需給の観点からの農林水産省の分析
- (4) 新規就農者支援関係
 - ア 新規就農を促進する就農準備資金・経営開始資金等の事業の予算の執行率
 - イ 各事業の年齢要件を緩和し50代・60代の新規就農者に対しても支援を行う必要性
 - ウ 親元就農者が経営開始資金事業を利用する場合の新技术の導入等の要件を緩和する必要性

近藤和也君（立憲）

- (1) 令和6年能登半島地震の復旧事業関係
 - ア 被災農林漁業者支援の課題解決に向けた方針
 - イ 令和8年度以降も支援を継続する必要性
- (2) 新たな経済対策に盛り込まれたお米券配付の対象、規模、時期、手法及び事務手数料
- (3) 米価高騰に関して小泉前農林水産大臣があえて卸売業者の利益を挙げたことに対する農林水産大臣としての謝罪の必要性
- (4) 作況指数を急ぎ作況単収指数に変えるのではなく、精度を高める方向で水稻収穫量調査等の統計の在り方を見直す必要性

平岡秀夫君（立憲）

- (1) 米国の関税措置に関する日米協議についての説明関係
 - ア 所信的発言で「相互関税」という言葉を使用した理由
 - イ 所信的発言からは日米合意により払拭されたとの印象を受ける、日米協議における農林水産大臣

の懸念点

ウ 「日本が特定の農産物を市場開放する」旨のトランプ米国大統領のソーシャルメディアへの投稿に対する認識

エ バイオエタノールの輸入拡大が市場開放に当たるか否かに対する認識

(2) 国産材関係

ア 需要動向

イ 国産材としての需要拡大策

(3) 若者が漁業者として活躍している地域及びその特徴

(4) 外国人の農地及び森林取得に対する問題意識

池畑浩太郎君（維新）

新規就農者支援関係

ア 49歳以下の新規就農者数

イ 自治医科大学の修学資金貸与制度のような新規就農者への無利子貸付制度創設の必要性

空本誠喜君（維新）

広島県における養殖カキの大量へい死に対する関係省庁による支援の内容

許斐亮太郎君（国民）

(1) 農林水産大臣から生産者への現場のモチベーションを向上させるメッセージ

(2) 米の増産方針の転換が先の見通せる農政と相容れないとする指摘に対する農林水産大臣の見解

(3) 米価の高止まりを踏まえた今後の米の合理的な価格形成の在り方

(4) 新たな直接支払制度の検討に当たり与野党協議の場を設置する必要性

(5) セーフティネット対策の検討内容及びスケジュール

臼木秀剛君（国民）

(1) 所信的発言において食料自給率の向上と食料安全保障の確立を並列的に位置付けた農林水産大臣の意図

(2) 食料自給率の向上並びに飼料自給率の向上及び食品ロスの削減に向けた取組

(3) 畜産クラスター事業について過去の評価及び推進の必要性

(4) 高病原性鳥インフルエンザに関し鶏舎の設備に対する支援を含めた現実的で適切な防疫措置を講ずる必要性

(5) 農業及び食料分野におけるモダリティシフトを推進する必要性

(6) 就農準備資金及び経営開始資金の交付額を引き上げる必要性

(7) 酒造好適米について生産及び実需の契約の継続が可能となる施策の在り方

角田秀穂君（公明）

(1) 米政策関係

ア 農林水産大臣の言及する「需要に応じた生産」と従来の施策との異同

イ 備蓄米の放出に伴う倉庫業者の減収に対する財政的な支援の必要性

ウ 米の安定供給確保に向けた備蓄政策等の検討状況

- (2) 養殖カキの大量へい死の原因究明及び事業者支援充実の必要性
- (3) 酪農ヘルパーの処遇改善等に国が積極的に取り組む必要性
- (4) 地域おこし協力隊員の活動に対する国の支援を更に充実させる必要性
- (5) 国際研究協力関係
 - ア 国際的研究協力の成果の実証・実装が十分に進んでいない理由及び国際農林水産業研究センター（JIRCAS）の今後の具体的な取組
 - イ 日本の発言力確保等のため国際農業研究協議グループ（CGIAR）への資金協力を積極的に行っていく必要性
 - ウ 若い研究者が積極的に海外で研究に打ち込める環境づくりの必要性

八幡愛君（れ新）

- (1) 「責任ある積極財政」に関する農林水産大臣の考え
- (2) 高市政権における農林水産行政の位置付け
- (3) 輸出よりも国内生産の安定に努める必要性
- (4) 植物工場関係
 - ア 農林水産政策における位置付け
 - イ 利権等の有無及び農林水産大臣の期待
- (5) れいわ新選組の掲げる米政策に対する農林水産大臣の見解

北神圭朗君（有志）

米の需給関係

- ア 生産目安が予測需要を下回っていた理由及び今後の方向性
- イ 令和6年産米の需要実績と需要見通しの乖離について本年8月公表の検証結果では説明できない部分に関する認識
- ウ 作付面積等の調査手法の見直しを行う必要性
- エ 最近の消費・流通動向等についての認識